

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる文化

第126回

庶民の学ぶ熱意で創建された『延方学校』

〜創立二百十年を経て〜 第2章

延方学校は、水戸藩校弘道館の開設後、藩が領内に設立した多くの学校を「郷校」の名に統一するまで「延方講釈所」とも呼ばれていた。文政八年（1825）の「大洲新田御用留」に四月二十一日延方村庄屋の孫兵衛が同じ水戸藩領の各庄屋に出した次のような廻状がある。「明二十七御郡奉行様講釈所御出席候間此段御通達申上候 例之通津之宮先生 御招き二而御講釈聞被遊候間 聴聞人等指出被下候」この内容は、四月二十七日に郡奉行の小宮山楓軒が、延方講釈所（延方学校）に来訪、津の宮の先生（久保木清淵）を招いた講義を聞くから、各村からも

聴聞人を出席させてほしいのとこのとであり、文面から聴聞が恒例になつてゐることを窺い知ることができる。これに関連して、小宮山楓軒の郡奉行在任中は講釈所への出席が良好な者を度々表彰して、庶民の受講を奨励している。久保木清淵氏の来訪は、毎月八日と二十三日の月二回であった。

延方講釈所の盛況の様子は、小宮山楓軒の著書「懷宝日記」文政元年の記事に「五月八日 久保木清淵氏の講義礼楽記 沢田平格氏の講義大学 聴衆四百三十七人なり」と書かれている。

潮来市文化財保護審議会委員

石津 藤好



延方学校（郷校）が作られた内田山の地に立つ碑
今は茨城県立潮来高等学校が設立されている



延方学校跡の内田山麓

潮来市の誇れる自然

第35回

水中に広がるミクロな世界

〜キボシチビコツブゲンゴロウ

みなさんは「水生昆虫」といえば、どんな種類を思い浮かべますか。きつと、田んぼで魚やオタマジャクシをじつと待ち、大きな鎌で捕まえるタガメや、水の中を優雅に泳ぎ回り、「緑色のダイヤモンド」と呼ばれることもあるゲンゴロウなど、体長数cm以上の大きくかつこい種類を思い浮かべることでしょう。

ところが水生昆虫の仲間では、そういった大きな種類は少数派です。もっと小さな種類が大半を占めています。最近、私たち水圏センターの学生が潮来市内のため池で採集調査を行ったところ、キボシチビコツブゲンゴロウ（写真）など、小さな水生昆虫がい

くつも発見されました。キボシチビコツブゲンゴロウはその名の通り、黄色い模様を持つ、体長3mm程度の小さなゲンゴロウの仲間です。本種は日本国内では本州と九州のごく限られた地域に分布しており、茨城県内での記録はわずかで、県版レッドデータブックでは絶滅危惧

は絶滅危惧



採集時のキボシチビコツブゲンゴロウ
(網の目合いは1.5mm)



池の中を泳ぐキボシチビコツブゲンゴロウ
(山崎和哉 撮影)

種に選定されています。今回の採集記録は、全国の昆虫研究者が読む雑誌「月刊むし」にも掲載されました。本種のような小さな水生昆虫は、田んぼやため池、水たまりなど身近なところに生息しています。しかし、環境変化に弱いうえに、小さすぎて誰にも気づかれず、いつの間にか姿を消していきます。潮来市内には希少な水生昆虫の生息地となる自然豊かな田んぼやため池が多く残されています。今後、詳細な調査を実施すれば、貴重な種類がまた見つかるかもしれません。みなさんも水辺を歩く際には、少ししゃがみ込んで水中のミクロな世界を覗いてみてはいかがでしょうか。

茨城大学広域水圏環境科学
教育研究センター

内田 大貴・山崎 和哉・
大森 健策